



高知ファイティングドッグス 黒潮町スプリングトレーニング

四国アイランドリーグplusに所属する高知県の野球チーム「高知ファイティングドッグス」が2月4日(木)から7日(日)までの4日間、大方球場(土佐西南大規模公園)を拠点にスプリングトレーニングを行いました。

4日(木)のトレーニング開始前には歓迎式典が行われ、吉田監督から「今年は14名が新戦力。選手の力量を見極めながら力を蓄えていきたい」とあいさつがありました。

今シーズン、チームのキャプテンには、ブルキナファノ出身の外野手・サンフォ・ラシナ選手が選ばれ、サンフォ選手は、「今年は年齢が近い選手が多い。自分が引っ張っていくというよりは、みんなで力を合わせて良いチームを作りたい」と意気込みました。



あいさつをするサンフォ選手

この場所へ、再び帰ってきました!

同クラブ所属の平間凜太郎選手(投手)と谷村拓哉選手(投手)。実は、毎年黒潮町へ合宿に来てくれている専修大学野球部出身。特に、谷村選手は在学中、毎年この地を訪れていたそうで、「黒潮町の方からいただく差し入れやご飯が美味しかったり、ここには良い思い出が詰まっている。チームが変わったけれど、またここへ来られて嬉しい。今年はチームの柱になって優勝できるよう頑張りたい」と話してくれました。専修大学出身のお2人、おかえりなさい!



平間選手(左)と谷村選手(右)

まちのできごと

Tシャツアートでパラオと交流

砂浜美術館の「Tシャツアート展」を通じて、町内の子どもたちにも国際交流を経験してもらおうと、2月4日(木)、パラオのガラロン小学校と町内7校がオンライン上で交流授業を行いました。

町内の小学4年生は毎年、「Tシャツアート展」へ応募するためのTシャツ作成を行い、実際に飾られた光景を見るという取組を行っています。今年11月に同イベントで飾られた子どもたちのTシャツは今回パラオへと渡り、地元と海外のそれぞれの良さを見つけようといわれたオンライン交流では、ガラロン小学校の校舎へ飾られたTシャツが映し出されたり、お互いの国の好きなところを紹介し合ったりしました。

入野小学校4年生の古館里秦さんは、「自分たちが作ったTシャツがパラオで揺れている様子が見られて良かった。Tシャツが戻ってきたら大事に使いたい」と話しました。



画面に向かって手を振る児童ら

大方高校と入野本村地区が 防災交流学習を実施

大方高校で地域学を学ぶ1年生13名と入野本村地区の住民ら12名が1月26日(火)、災害時の避難を想定した防災交流学習を行いました。

同校は、災害時に同地区の住民が避難所として使用することが想定されているため、生徒と住民が課題を共有することで今後に役立てていく目的で実施されました。

参加者らは、備蓄品の確認やテントの設置方法の確認などをした後、「HUG(避難所運営ゲーム)」を行い、避難者を受け入れる際にどのように部屋割をするかなどを話し合いました。



HUGを行う生徒と住民ら

同地区自主防災組織の篠田正近会長は、「住民と子どもたちとの意思疎通ができた。地域住民が参加することで防災がより強固なものになると思うので、今後も実施していただきたい」と話しました。